

**岡山市公共施設等総合管理計画
個別施設計画
(資料館、郷土館等社会教育施設)
(第2期計画)**

令和8年3月

**岡山市教育委員会事務局
生涯学習部
文化財課**

目 次

1	計画の位置づけと目的	— 1 —
2	計画の期間	— 1 —
3	計画の対象施設	— 1 —
4	施設の現状と課題	— 2 —
5	施設整備の方針	— 3 —
6	施設整備の対応内容	— 3 —

1 計画の位置づけと目的

公共施設等が老朽化に伴う更新時期を迎える中であって、財政負担の平準化を図りながら、市民の安全・安心を確保し、サービスを将来にわたって持続的に提供していく必要があります。さらに、子育て環境の向上、防災機能の強化、脱炭素の推進などへの対応も必要です。

このため、長期的な視点で、財政負担の平準化を図り、市民の安全・安心を確保し、必要なサービスを将来にわたって提供していくことを目的として、平成 29 年 3 月に「岡山市公共施設等総合管理計画（以下「総合管理計画」という。）が策定され、そしてこの度、第 1 期計画の計画期間が満了となるため、これまでの取組状況等を踏まえ、新たに第 2 期計画が策定されます。

この「総合管理計画」の中で、個別施設単位あるいは施設類型単位で施設の更新や規模の適正化等を進めていくために「岡山市公共施設個別施設計画」を策定することになっています。

岡山市は、資料館や郷土館等の社会教育施設として岡山市御津郷土歴史資料館、岡山市灘崎歴史文化資料館、岡山市埋蔵文化財センター、岡山市瀬戸町郷土館、岡山市立歴史資料館足守文庫を設置しています。これらの施設で恒久的に文化財の保管・展示・活用を行っていくために、「総合管理計画」を踏まえて、岡山市公共施設等総合管理計画個別施設計画（資料館、郷土館等社会教育施設）（以下「本計画」）を策定します。

2 計画の期間

「総合管理計画」の期間が令和 8 (2026) 年度から令和 17 (2035) 年度までの 10 年間となっていることから、本計画の期間は、令和 8 (2026) 年度から令和 17 (2035) 年度までの 10 年間とします。令和 18 (2036) 年度以降については、10 年ごとに計画の見直しを行うものとします。なお、状況の変化があった場合には、その都度見直しを行います。

3 計画の対象施設

本計画の対象施設は、次表のとおりです。

資料館、郷土館等施設一覧

	区	耐震	構造	建築年	延床面積	階数	施設形態
岡山市埋蔵文化財センター	中区	新耐震	鉄筋 C 造	平成 12 年	1,895.79 m ²	3 階	単独施設
岡山市御津郷土歴史資料館	北区	新耐震	鉄筋 C 造	平成 14 年	1,038.39 m ²	平屋	御津ふれあいプラザと併設
岡山市灘崎歴史文化資料館	南区	新耐震	鉄骨鉄筋 C 造	平成 6 年	190 m ²	1 階	灘崎文化センターと併設
岡山市立歴史資料館足守文庫	北区	旧耐震	コンクリートブロック造	昭和 38 年	151 m ²	平屋	単独施設
岡山市瀬戸町郷土館	東区	旧耐震	木造	戦前	253.48 m ²	平屋	単独施設

4 施設の現状と課題

(1) 岡山市埋蔵文化財センター

岡山市埋蔵文化財センターは、市内の発掘調査関係の事務を行う執務室と発掘調査によって出土した遺物を保管する倉庫です。平成12年に建設されました。内部には事務作業を行う事務室と発掘調査によって出土した出土物の整理、保存、保管、研究を行う作業室、研究室、収蔵庫、啓発の場の展示室が設けられています。展示室では、旧石器時代から江戸時代までの市内の歴史を、発掘調査出土物で説明しています。収蔵品は収蔵箱（60×40×15 cm）で11,900箱の出土遺物（土器・石器・木器等）と歴史資料320点があります。専門職員と外部講師による考古学講座や、勾玉づくりなどの夏休み子供講座なども定期的に開催しています。

岡山市埋蔵文化財センター見学者数

公開年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6
見学者数	1,418	575	749	1,150	1,300	1,337

(2) 岡山市御津郷土歴史資料館

旧御津町が平成10年に造酒屋の西武藤家から敷地・建物の寄付を受け、文化財・美術品等を展示する資料館と市民交流の場となる交流プラザとの一体施設として、平成14年に部材を利用して建替えされました。資料館には、旧御津町の発掘調査資料150点と、書家栢菅溪雨氏から寄贈を受けた美術品700点、民俗歴史資料25点を収蔵・展示し、展示室2、企画展示室1、収蔵庫1があります。旧御津町域の歴史と文化を学ぶ場として利用されています。

岡山市御津郷土歴史資料館見学者数

公開年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6
見学者数	800	718	589	657	623	932

(3) 岡山市灘崎歴史文化資料館

灘崎文化センターに併設された旧灘崎町域の歴史・考古・民俗・美術工芸資料の展示、収蔵施設です。平成6年に建設されました。展示・収蔵品には、旧町域で発掘調査して出土した遺物1,200点や歴史資料220点、干拓に用いられた民具80点などがあります。平成20年3月に国史跡に指定された彦崎貝塚のガイダンス機能を有する施設でもあり、旧灘崎町域の歴史と文化を学ぶ場として利用されています。

(4) 岡山市立歴史資料館足守文庫

蘭学医緒方洪庵にまつわる資料など旧足守藩内に関わる資料や、足守陣屋町と、その周辺で発掘調査された出土遺物などを収蔵展示しています。収蔵品は、発掘調査出土物110

点、歴史資料 120 点があります。昭和 38 年に旧足守藩木下家史料を収蔵・展示する目的で、近水園に隣接して建てられました。足守の歴史や江戸時代の陣屋町の人々の生活ぶり的一端を知ることができます。

昭和 38 年に建設された建物であり、施設の老朽化が課題となっています。

岡山市立歴史資料館足守文庫見学者数

公開年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6
見学者数	34	17	44	69	38	113

(5) 岡山市瀬戸町郷土館

旧瀬戸町域の考古・民俗資料などの文化財の展示・収蔵施設です。展示・収蔵品は、旧町域で発掘調査された出土品や採集遺物、旧町域で使用されていた農具などの民具です。収蔵品は収蔵箱（60×40×15 cm）で 630 箱の出土遺物（土器・石器・木器等）と歴史民俗資料 506 点があります。旧瀬戸町玉井保育所であった建物を再利用して昭和 55 年に開館しました。史跡大廻小廻山城跡と史跡万富東大寺瓦窯跡のガイドンス施設・出土遺物等の展示施設としての役割も果たしており、旧瀬戸町域の歴史と文化を学ぶ場として利用されています。

戦前に建設された建物であり、施設の老朽化が課題となっています。

岡山市瀬戸町郷土館見学者数

公開年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6
見学者数	172	56	101	152	175	42

5 施設整備の方針

総合管理計画の趣旨を踏まえるとともに、各施設で行っている資料収集、保管、調査等を継続していくことによって、地域文化の向上に取り組みます。

そのために適切な維持管理措置を講じ、耐震基準を満たしている岡山市御津郷土歴史資料館、岡山市灘崎歴史文化資料館、岡山市埋蔵文化財センターは、劣化した部分が拡大する前に修繕を行い、施設の使用年数を延ばす長寿命化を進め、財政負担の縮減や平準化を図ります。

施設の老朽化が課題となっている岡山市立歴史資料館足守文庫、岡山市瀬戸町郷土館については、建替え等を検討していきます。

6 施設整備の対応内容

(1) 岡山市埋蔵文化財センター

耐震基準を満たしていることから耐震補強工事の必要はありません。長期的には建物本体と設備の経年劣化への対応が課題です。

したがって、日常的な維持管理・補修を徹底して長寿命化と財政負担の縮減や平準化を図ります。

(2) 岡山市御津郷土歴史資料館

耐震基準を満たしていることから耐震補強工事の必要はありません。長期的には建物本体と設備の経年劣化への対応が課題です。

したがって、日常的な維持管理・補修を徹底して長寿命化と財政負担の縮減や平準化を図ります。なお、高圧受電設備について、設備更新を行います。

(3) 岡山市灘崎歴史文化資料館

耐震基準を満たしていることから耐震補強工事の必要はありません。長期的には建物本体と設備の経年劣化への対応が課題です。複合化している施設に合わせ施設の長寿命化を図ります。

(4) 岡山市立歴史資料館足守文庫

岡山県指定名勝地内に立地していることから、現在地での建替えは制限されています。したがって、別敷地への建替えも含め、検討していきます。

(5) 岡山市瀬戸町郷土館

戦前に建設された木造施設であることから、別敷地への建替えも含め、検討していきます。

(6) 長寿命化

①対象施設と目標使用年数

耐震基準を満たしている岡山市埋蔵文化財センターと岡山市御津郷土歴史資料館は、施設の維持管理を徹底して施設の長寿命化とライフサイクルコストの縮減を図り、法定耐用年数（減価償却資産の耐用年数等に関する省令（昭和40年大蔵省令第15号）を越えて施設を使用することを目指します。その際の目標使用年数を、「建築物の耐久計画に関する考え方」（日本建築学会）や施設の現在の状況等を参考に、以下のとおり設定します。

	構造	躯体の建築年	法定耐用年数	目標使用年数	目標使用年
岡山市埋蔵文化財センター	鉄筋C造	平成12年	50年	80年	2081年
岡山市御津郷土歴史資料館	鉄筋C造	平成14年	50年	80年	2083年

施設更新（建替）は、目標使用年数80年経過後を目途としますが、劣化状況その他の要因により、実施時期が前後する場合があります。

なお、更新時には、複合化、総量の適正化を検討します。

また、岡山市灘崎歴史文化資料館は、灘崎文化センターとの複合施設であり、目標使用

年数等については、施設の所管元課の方針によるものとします。

②改修方針

「総合管理計画」では、大規模改修を築40年で実施することで試算していることから、築40年を目途に大規模改修を行うこととします。

なお、小修繕は必要に応じて随時実施していきます。